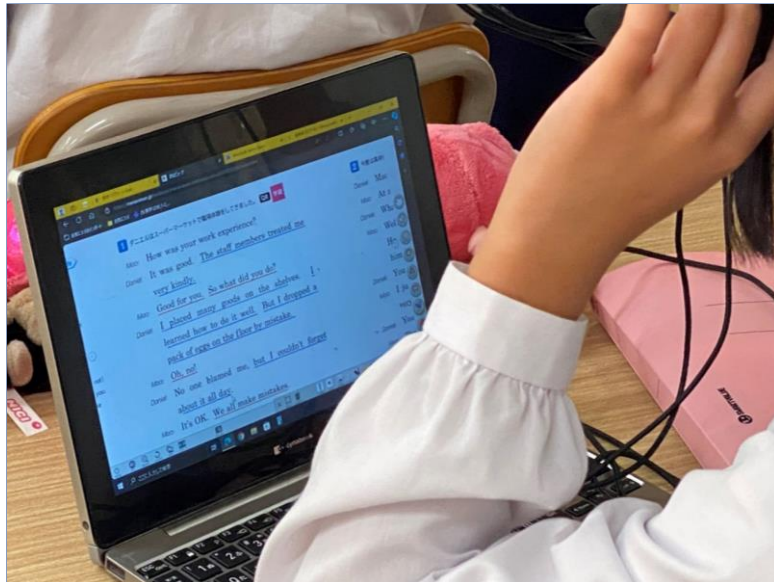


【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

○国語科における取組

国語での取組の詳細（項目を立て、最大3～4事例）

- ・各自のノートのデジタル化
2年生国語科では、Classnotebookを活用し授業プリントのデータを配信している。紙とデジタルを選択できるようにし、生徒一人一人が自分に合った方法で学習を記録している。配信された授業プリントのデータを活用する生徒は、気になる語句をインターネットを使い調べたり、関連する画像などをClassnotebookに添付しまとめている。
- ・デジタル化したノートを活用した協働学習
Classnotebookは学級全体で共同編集することもでき、意見交流や協働的な学びにも適していた。
- ・デジタルドリルを活用した個に応じた指導の工夫
デジタルドリルの漢字ドリルを授業最初の5分間で取り組ませ、漢字学習の習慣化、生徒の習熟度を把握し指導に活かしている。



○グローバル・スタディ科における取組

グローバル・スタディ科とは、さいたま市で2016年度より、すべての小・中学校で開始している、本市独自の英語教育である。小学校1年生から中学校3年生までの9年間を、一貫したカリキュラムの下で、「聞く」「話す」「読む」「書く」4つの技能をバランスよく学び、将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる児童生徒を育成することを目指している。

本校2年生のグローバル・スタディ科では、Microsoft TeamsのReading Progressを活用した「話す」ことのトレーニングを実施しており、生徒がタブレットに向かって読み上げた英文を、AIによって発音等が認識され、英文と発音の差異を視覚的に繰り返し学べるようになっている。生徒個々の「話す」技能をICTを活用して高めることができ、練習回数の増加だけでなく、視覚的にわかることによる意欲の向上が見えられた。

国策により英語の学習者用デジタル教科書が使えるようになっていることから、学習者デジタル教科書の発音を聞き、Reading Progressで練習を繰り返すことをしている生徒が増えてきている。